
編集後記

本号は、令和7年3月に選択定年をされた下村裕先生、そして、令和8年3月に定年を迎えられる横山千晶先生、安田淳先生、笠井裕之先生のご退職記念号です。この場を借りまして、ご寄稿いただいた多くの先生に深く感謝申し上げます。

下村裕先生は1991年に本塾専任講師として着任され、法学部の自然科学部門の運営に力を注いでくださいました。下村先生は長年解けなかった卵の回転の謎を解かれたことで有名（2008年には義塾賞を受賞）ですが、専門分野である物理学でのご活躍のみならず、2006年から2012年までの6年間、志木高等学校の学校長として、さらには、2013年から2017年までの4年間は法学部日吉主任を務められ義塾に貢献してくださいました。私は先生が日吉主任をなさっている間、学習指導主任としてお支えする立場にありましたが、先生は何時も泰然自若とされており、決して慌てることのないお姿に常に感銘を受けておりました。

横山千晶先生は1989年に法学部専任講師として着任され、法学部の英語教育にご尽力くださいました。横山先生が長年取り組んでこられた英語のドラマのクラス（および、年末のドラマ発表会）は名物授業の1つとなっておりますが、ここでのご活躍のみならず、2004年から2010年まで教養研究センターの所長として、2017年から2025年まではメディアセンター長として大役をお務めになりました。さらに、2010年から現在まで横浜の寿町に設置された「カドベヤで過ごす火曜日」の運営代表も長年務められています。多くの委員会、お仕事を兼任され、常にお忙しくされていたことから、いつしか「横山千晶先生双子説」がまことしやかに囁かれるようになりました。同じ部会ということもあり、私自身、数えきれないほど多くのご指導を受けましたが、常に温かく、優しく接していただき感謝の言葉しかありません。

安田淳先生は1995年に法学部の専任講師に着任され、中国語のみならず、ご専門である現代中国の軍事・安全保障政策の諸問題についての授業も担当され、法学部を支えてくださいました。授業に

おけるご活躍もさることながら、2005年から2007年は学習指導主任、2011年から2015年は学部長補佐、2021年から2023年は日吉インフォメーションテクノロジーセンター所長と要職を歴任され学部内外で義塾に貢献してくださいました。着任年度が先生とたまたま同じであった上に、学内の委員会でも一緒にする時間が比較的最長だったこともあって安田先生には多くのご助言を賜り、私にとっては信頼のできる「兄貴」のような存在であります。論理的でありながら、人一倍情の深いお人柄で、常に後に続く私たちを温かく見守ってくださいました。

笠井裕之先生は1994年に法学部専任講師として着任され、長年本学部のフランス語教育の充実に力を注いってくださいました。中でもフランス語統一教科書の作成、統一試験の実施、そして、詩を創作する人文科学特論、人文科学研究会では大きな成果をあげられました。さらに、ご専門であるジャン・コクトーに関する研究のみならず、アート・センターの「瀧口修造コレクション」の1万点にわたる資料の整理にもご尽力くださいました。振り返ってみると笠井先生と学部内の仕事で一緒にさせていただく機会は比較的最少なかったものの、学外で懇意にさせていただき、学部のこと、ご専門のことなどさまざまなことを教えていただきました。笠井先生は常に平穏な心境をもって物事に向き合われ、私が目標として仰ぐ存在です。

法学部で長年ご活躍され日吉の一時代を築いてこられた先生方のご退職を迎えられ、深い感慨とともに惜別の念を禁じ得ません。下村先生、横山先生、安田先生、笠井先生の長年にわたる学部および義塾に対する多大な貢献に改めて深く感謝申し上げますと同時に、先生方の今後のご健康とご活躍を心より祈念し本号を捧げたいと思います。

令和8年2月

(編集責任者 篠原俊吾)
